

巻頭言 川崎キングスカイフロントへようこそ

野村 龍太

Nomura Ryuta

(公益財団法人 実験動物中央研究所 理事長
キングスカイフロントネットワーク協議会 会長)



公益社団法人日本アイソトープ協会川崎技術センターが平成30年1月より事業を開始され、新たな時代に突入されたことに対し、心よりお祝いを申し上げます。今から7年前の平成23年に当地川崎市の殿町地区のライフサイエンスの拠点（キングスカイフロント）に第一号として進出した研究所の理事長として、当初の苦勞を知っていただくと共に今後キングスカイフロントの目指す方向性と、日本アイソトープ協会への期待について毎号の巻頭言とは異なった切り口で記述させていただきたい。

実験動物中央研究所（実中研）は民間の公益財団である。40年以上お世話になった川崎市の野川の施設が老朽化し移転先を探していた際、川崎市から紹介を受け、建物一つ無い砂埃舞う殿町に10年ほど前に初めて来た。多摩川を挟んで見える羽田空港を間近に見て、世界に羽ばたく日本の科学研究の拠点としてここしかないと一目ぼれしたのを鮮明に覚えている。

苦勞の末何とか国からの支援を含め資金の用途を付け、移転に向けたプロジェクトが進み始めた頃、政権が自民党から民主党に代わり、内閣府から内定を頂いていた資金の約30億円が3億円に削られた。移転費用の2/3近くが無くなってしまい一時計画を断念することも検討したが、経済産業省、川崎市等からの公的資金、企業からの寄付と銀行からの25億円近い融資を頂くことで移転に踏み切った。しかし建物が完成し、引き渡しを受けた10日後に東日本大震災に見舞われた。寄付を約束してくださっていた多くの企業の寄付は東北地方に行ってしまう、実中研には最初の約束の1/10程度しか頂けず、踏んだり蹴つたりの旅立ちであった。その後人件費・給与等の大幅経費カットをはじめ大変な苦勞の末、野川の土地の売却が成功し、実中研開発動物が世界中で予想を大幅に超える売り上げを記録、そのロイヤリティー収入増等により、約7年で20億円近い借金の返済に成功し、やっと本業の研究活動が順調に行えるところまで来た。

ここに至る中で川崎市、神奈川県と共にいろいろ協議し、この地に風を吹かせ、この地を日本のライフサイエンスの発信拠点にしようということになった。種々議論の末この地の目指すものを①今後2-30年の日本のライフイノベーションのショーケースにする。②世界の中の日本であると考え、地球規模の発想で世界に発信する研究拠点とする。③種々の特区に選定され、新たな取り組みを実行していく拠点になる。④再生医療事業化に向けた日本の拠点となる。⑤進出法人・企業がお互いに顔の見える関係を構築し、協力しあって成果を出していく。等とし誘致を進めてきたところ、平成29年末で57機関が進出（契約済みの未完成を含む）し、夢の実現に近づいてきている。最近注目度も上がり、二つの特区に指定され、文部科学省からはリサーチコンプレックスという地域に認定され、その中で共用ライブイメージングセンターが実中研内に設置され、MRI、CT等が稼働している。

この中で日本アイソトープ協会への期待は、これらを支える重要なキーテクノロジーであり、昨今革新的な技術開発が進む画像解析、RI関連システムに関し、共同開発を行うと共に、他では手に入らない近隣ならではの特殊なアイソトープを使った最先端の研究を当地で行い、進出企業と共に世界の人類の健康と福祉に貢献できる成果を作り上げていくことです。是非これから長いお付き合いを宜しくお願い致します。